

令和6年度の学校評価

重点目標	1 規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 3 生徒の可能性の追求と進路目標の実現 5 地域の文化や歴史の理解と地域連携の充実	2 基礎学力の定着から発展的な学びへの伸長 4 学校行事や部活動を通しての豊かな人間性の育成 6 業務改善と健康障害防止の実現	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	積極的な地域連携を基盤とした地域に不可欠な美和高の実現	・地域活動に対してより積極的な生徒参加	・来年度から始まる地域探究科において地域社会との連携を強く進めることができた。目標5の到達にむけて総務部としてできたと考える。授業内で行われる探究推進部との業務分担を意識しつつ、学校全体で地域連携に取り組む体制はさらに強化していく必要がある。
	美和高校の魅力の色々な面からの発信	・リアルやデジタルの力を利用した美和高校の発信力の強化	・校務支援員の協力も得ることができ、担当者の膨大な努力によって発信を強めることができています。業務改善につなげるような施策をとっているが、従前の施策との併用などで、目標6にもあるような業務改善につなげていない。業務のデジタル化は必要である。
教務部	授業内容の充実	・授業や総合学習を利用した主体的な学習姿勢の育成	生徒の実態に応じた指導については各教科と多少ずつではあるが進めることができた。次年度はさらに継続していきたい。また、学習内容の定着という面に関してはまだ課題も多い。
	目標の設定と学習意欲の喚起	・授業や面談などを活用した具体的な目標設定	目標設定が適切にでき、学習に対する意欲をもって丁寧に取り組む生徒がいる一方で、一部ではあるが目の前のことを落ち着いて取り組むことができない生徒もいる。面談等を活用し、今後も丁寧な指導を心がけたい。
進路指導部	適切な進路目標の設定	・充実した進路情報の提供	進路に関する講話や配布物に関してフィードバックを設けるなど、より生徒の意見を反映したものを作っていく。一方で、多くの3年生や一部の1、2年生が、進路室に相談に来るなどの様子から開かれた進路室という取り組みは及第点と判断。
	進路実現のため主体的、計画的に行動できる力の育成	・進路講話、進路通信による情報提供及び教員による適切な面談の実施	「進路ノート」の成果は限定的であった一方で、チャレンジタイム等の成果は数値としてはまだ測りかねている状況である。より成果を可視化できる教材が必要かもしれない。
生徒指導部	社会で通用するマナーの育成	・自発的な挨拶の励行や、時間やルールを守らせることにより落ち着いた学校生活を送らせる。	自発的な挨拶ができる生徒は増加。ルールを守りながら生活できている。
	規律を守る生徒の育成	・指導の徹底と生徒が安心できる指導体制の確立	全体として落ち着いた雰囲気生活が出来るようになってきている。心配事を抱えている生徒は一定数いるが、各学年や保健室で対応している。
図書部	図書館利用者および貸出数の増加	・図書館内の展示や広報活動、読書関連行事の利用	例年と比較し、来館者数及び貸出冊数の増加がみられた。特に1年生の利用者が多く、定着が期待できる。
	読書環境の整備ならびに充実	・購入希望図書、企画展示・調べ学習等に必要図書および館内設備の計画的整備	本年度は幅広い図書の受け入れを行った結果、より充実した蔵書になっている。自習の場としてもよく活用されている。年4回の企画展示、生徒作成のポスター掲示など少しずつではあるが、読書の推進活動を進めている。
特別活動部	生徒会活動の充実	・学校祭はじめ各行事内容の充実 ・各行事での自主運営の促進	スポーツ大会を残しているが、すべての活動を特別活動部の教員だけでなく、多くの先生方に協力していただけた。より美和高校の発展のために特別活動部の行事を盛り上げていきたい。
	部活動の活性化	・部活動の試合予定や結果の掲示と発信 ・学校行事、地域活動への積極的な参加	部活動の精選をおこなう必要がある。また、生徒に対して部活動加入の目的などをしっかりと説明していく必要がある。地域活動は、継続して生徒に呼びかけていきたい。
保健美化部	保健委員と美化委員の活動の拡充	・保健委員の各検診のクラスでの案内による、クラスでの検診に対する意識の涵養 ・美化委員の清掃道具の運搬と補充等による、クラス的环境美化に対する意識の高揚	保健委員も美化委員も、担当する任務を積極的かつ円滑に取り組んでくれた。今後は任務の中に保健委員の意見も取り入れて、自己有用感を育んでいきたい。
	清掃活動の円滑化	・改修工事に伴う清掃区域の変更を生徒の実情と教員の意識を考慮し、清掃活動が円滑にできるようにする	教室棟や本館の改修は完了したが、今後は体育館の改修なども計画されており、より柔軟に対応していく必要があるであろう。
探究推進部	総合的な探究の時間の深化	・あま市観光協会との連携事業の充実 ・中学校訪問の工夫 ・連携大学との共同ゼミの実施	連絡・連携不足の状態もあったが、学年の先生方のお力添えもあり、予定していた行事は概ね終了した。今年度の反省点をもとに、運用方法等をを修正していくことが来年度の課題である。
	令和7年度の新学科開設に向けた準備の完了	・連携機関及び連携大学の拡充 ・新学科カリキュラムの完成 ・新設教科の教材の準備	星城大学・名古屋学院大学との新規の高大接続連携協定締結や、カリキュラムの決定、教材の作成と学校設定教科・科目の申請等、年度当初の予定については恙なく完了した。来年度は、実施しながら反省点を記録し、修正を加えていく。
1年生	規律ある生活習慣の確立	・遅刻、欠席、早退の防止 ・無断遅刻の防止 ・身だしなみや集合の徹底 ・部活動、学校行事への積極的参加	大多数の生徒はしっかりと学校生活を送ることができている。声掛けや指導に関しては全体としては取り組んでいる。
	精神的自立心と自律心を養う	・様々なことに挑戦させ成功、失敗を体験させる ・すべきことを理解し、それを行動に移せるよう促す ・自己肯定感を養う	主体的に動くことができる生徒もいるが、そうでない生徒の方が多い状況である。しかし、考えさせると素直に話を聞き、行動に移せる生徒も増えてきているので、継続して指導をしていきたい。
2年生	基本的な生活習慣の確立	・遅刻、欠席、早退の防止 ・無断遅刻の防止 ・身だしなみや指導や集合の徹底 ・部活動、学校行事への積極的参加	目的、目標を持って生活できている生徒は少ない。ただ、そういう生徒を大切にしていきたい。学年団は平日頃から声をかけているので、生徒との信頼関係は築けている。特定の生徒に対するの打開策がないのが課題である。
	折れない心の精神の育成	・様々なことに挑戦させ失敗、成功を体験させる ・自分が自分である存在意義を認める ・美和高生のプライドを持って行動することを促す	失敗を恐れず挑戦させる、という気持ちを学年団全員で持つことができた。生徒の成長を認め、伸長する心を今後も養っていきたい。あとは、動ける生徒を増やしていきたい。
3年生	基本的な生活習慣の確立	・身だしなみや指導や遅刻防止運動 ・挨拶の励行 ・清掃活動への前向きな取り組み ・学習習慣の定着	学年団の雰囲気も良く、生徒を支援することができた。3年間で持ち上がった担任の先生方も多く、生徒との信頼関係を築けていたと思う。
	進路希望の実現	・特別学習、模試、土曜学習会などへの積極的な取組の推進	入試が多様化されてきているので、旧態依然のままではなく、第3学年だけでなく職員が協力し、特学や模試、土学などの体制を整える必要があると思う。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・生徒が自己有用感を持つことができる場や環境を整備し、より主体的・探究的に学び行動できる体制を確立し実践する。 ・地域との連携を図り、様々な教育活動を通じて生徒の可能性を発見し、引き出し、伸ばしていく。	